



報道機関各位

熊本大学企画部企画課広報室

熊本大学エイズ学研究センター記者会見のご案内
「Adaptation of HIV-1 to human leukocyte antigen class」

熊本大学エイズ学研究センター及び国立国際医療センター、英オックスフォード大学などの国際研究チームは、世界各地の感染者を調査して、エイズウイルス(HIV)がヒト免疫から逃れるために急速に変異していること突き止め、2月26日付けの英科学誌ネイチャー電子版に発表しました。

つきましては、発表内容について、以下のとおり記者会見を開催いたしますので、取材ご希望の報道機関の方は、下記<連絡票>に必要事項をご記入のうえ、熊本大学広報室へFAXにてご連絡願います。

記

【日 時】平成21年3月3日(火) 17:00~

【場 所】熊本大学エイズ学研究センター(本荘地区)
会場は、後ほどお知らせいたします。

【出席者】滝口 雅文 教授(エイズ学研究センター長)

(切り取らずにこのままFAX送信してください。)

< 連絡票 >

(平成21年3月3日(火) エイズ学研究センター会見)

貴社名	
回答者	TEL FAX
出席	

恐れ入りますが、会場等準備の都合上 3月1日(日) までにFAXでご返信いただきますようお願いします。

FAX送付先: 096-342-3007

問い合わせ先: 企画部企画課広報室 TEL: 096-342-3119

要旨：

HIV-1 特異的CD8 T細胞は、HIV-1 感染細胞を認識し、その細胞を殺すことにより、HIV-1 の増殖はコントロールしている。一方、HIV-1 はこれらのT細胞が認識するエピトープ部位を変異させることで逃避することが知られている。我々はHIVの変異すなわちHIV-1 の多様性の獲得に及ぼすHLAクラスI分子の役割、すなわちHIV-1 特異的CD8 T細胞の役割を明らかにする目的で、世界9か所の異なったコホートでの2800人以上のHIV感染者のHLA抗原とHIV-1 のシーケンスを解析した。まず、HLA-B*51 拘束性のRT128-135 エピトープの解析をしたところ、9か所の異なったコホートで、逃避変異とHLA-B51 の間に強い相関を見出した($p=0.0001$)。さらに14個の免疫原性が強いエピトープに関して同様の解析をしたところ、逃避変異と拘束性のHLAとの間に強い相関がみられた($p<0.0001$)。これらの結果は、HIV-1 はHLA抗原に順応するように変異し進化していることを示している。我々のこの研究は、ウイルスが宿主の免疫に順応するように進化していることを考えたワクチン開発の必要性を示唆している。